

徳島県南部圏域振興計画見直し（素案）

～「四国の右下」の持続可能な地域づくり～

I	圏域の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・	1
II	目指すべき将来像と課題解決のための理念・・・・・・・・	7
III	課題解決のための基本戦略・・・・・・・・・・・・・・・・	10

第2章 圏域の現状と課題

1 大規模自然災害への対応と安全・安心な生活の確保

(現 状)

- ・ 南海トラフ巨大地震（マグニチュード8～9クラス）は、今後30年以内に70%～80%の確率で発生することが予測されており、明日にでも発生する可能性があります。
- ・ 本県が公表した一連の想定では、南部圏域の1市4町において、美波町での20.9mを最大に、阿南市で16.3m、牟岐町で13.4m、海陽町で18.4mの津波高が想定され、最も早いところで、地震発生後津波影響開始時間が4分、最大波到達時間が28分とされています。
- ・ 圏域内では、平成16年7月、8月の台風10号により、旧上那賀町海川の日降雨量が1,317mmになるなど記録的な豪雨となり、那賀郡において、大規模な斜面崩壊、土石流が発生し、多くの住宅が全半壊や土砂に埋もれるなどの被害を受けました。平成26年8月の台風11号に伴う豪雨災害では、那賀川の阿南市古庄水位観測所、那賀町和食水位観測所において観測史上最大の水位を記録するなど未曾有の大出水となり、甚大な浸水被害が発生しました。このほか、平成26年8月の台風12号、平成27年7月の台風11号、令和3年9月県南部に発生した線状降水帯により、圏域内の河川が氾濫し、広い範囲に浸水被害が発生しました。全国的にも、西日本を中心に被害をもたらした「平成30年7月豪雨」、東日本で多くの河川が氾濫した「令和元年東日本台風」、熊本県をはじめ九州や中部地方などで甚大な被害をもたらした「令和2年7月豪雨」など、毎年のように全国各地で大規模な自然災害が発生しています。このように、県南部圏域では頻発化・激甚化する豪雨や線状降水帯、台風の大型化などによる複合的な災害の発生が懸念されています。
- ・ さらに、少子高齢化による人口減少や核家族化が進む中、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域社会を取り巻く環境が大きく変化し、地域のつながりの希薄化が進行しています。このことから、支援を必要とする者に助けが届きにくく、問題が長期化・複雑化してから発見されるケースの増加が危惧されています。

(課 題)

- ・ 南海トラフ巨大地震の被害想定において、住宅等の耐震化率（現状81%）及び即避難率（現状33%）を100%にするとともに、避難場所を500m以内に配置することにより、死者数を想定の1割以下に減らすことができるとされています。このため、即避難率の向上、住宅等の耐震化、避難施設や津波防護施設の整備など、「助かる命を助ける」取組みが重要となります。
- ・ さらに、「助かった命をつなぐ」取組みも重要であり、災害時の医療体制の構築や、感染症対策を踏まえた避難所運営などの良好な生活環境の確保に努め、エコノミークラス症候群をはじめとした二次的健康被害や災害関連死を防ぐ対策が必要となります。
- ・ これまでの大地震の教訓を踏まえつつ、南海トラフ巨大地震を迎え撃つ、圏域の実情に応じた「自助・共助・公助」の取組みにより、予防から復興まで全ての段階において、リスクの軽減を図ることが必要です。
- ・ また、今後、巨大地震だけでなく、気候変動等の影響により台風の大型化や線状降水帯など、豪雨災害が頻発化・激甚化し、河川の氾濫や内水氾濫、土石流等による被害が甚大になることも予想されます。
- ・ 加えて、災害時のみならず、日常生活においても、健康で安全な生活をおくるため、医療提供体制の充実、医療・福祉・介護の連携と充実を図り、生涯健康を保ち生活の質（QOL）の高い暮らしを実現することに加え、DV・性暴力・児童虐待の防止、食の安全・安心の確保などが求められています。

2 「四国の右下」の強みを生かした観光誘客

(現 状)

- ・ 南部圏域は、海・山・川と三拍子そろった恵まれた地域であり、豊かな自然をフィールドにしたアウトレジャーなどを体験することができます。
特に、世界有数のサーフスポットである「カイクポイント」や、西日本第二の高峰「剣山」など多数の地域資源があり、「体験型観光」や「アウトドアスポーツ」などを楽しむことができます。
- ・ さらに、各地域に引き継がれた自然環境、歴史、伝統産業など豊かな「文化」が根付いており、国内外から観光客が訪れています。
- ・ また、四国八十八箇所21番・22番・23番札所を有しており、年中、お遍路さんで賑わい、最近では、外国人の歩き遍路も増えてきています。
- ・ 令和3年12月にDMV本格営業を開始後、DMV乗車のために国内外

から県南部を訪れた観光客は、1年間で約4万3千人と運行開始前の約2倍に上り、着実に観光需要が高まっています。

今後、2025年「大阪・関西万博」や「ワールドマスターズゲームズ2027関西」等を好機として、国内外からの誘客拡大が期待されているところです。

(課題)

- ・ 県南部は、著名な観光地を有する県東部や県西部と比べ認知度が低く、今後、DMVを核として国内外に県南部の魅力をPRし、認知度を向上させることが課題となっています。
- ・ また、DMVの運行を契機に、旅行者の周遊促進を図る必要があります。
- ・ さらに、インバウンド需要の本格的回復の兆しがある中、県南部へもDMVやお遍路などを目的に多くの外国人観光客等が訪れると予想されることから、旅行者の受入体制（キャッシュレス決済、災害時安全安心マニュアル・防災マップ、通訳ボランティア）の整備が課題となっています。

3 基幹産業である農林水産業の活性化

(現状)

- ・ 南部圏域では、総土地面積が県土の36%を占め、海・山・川などの自然に恵まれた農山漁村を舞台に、農林水産業が地域を支える主要産業となっています。
- ・ 農業は、県下一の早期米地帯として知られている阿南市の平坦部において、ほ場整備事業によりほ場の汎用性と大区画化が進み、ブロッコリーやキャベツなどの露地野菜の産地化と農地集積による水稻の大規模経営体等が育成されています。また、冬期の日照量の多さを活かし、施設園芸が取り入れられており、柑橘、野菜、花きなどは県下有数の産地となっています。
- ・ 那賀町では、冷涼で気温の日較差の大きい特有の気候を活かし、ユズやオモト、ケイトウなど、地域特産品目では日本有数の産地となっています。
特に、県内初のGI（地理的表示保護制度）を取得した「木頭ゆず」では、輸出や大手流通企業との連携、新たな加工商品の開発などの取組みが進められています。
- ・ また、海部郡では、キュウリやオクラ、阿波尾鶏の生産が盛んであり、特に、移住就農による地域活性化に取り組む「きゅうりタウン構想」を推進しています。
- ・ 林業は、森林面積が95%を占め、県下最大の森林地帯である那賀町を

中心として古くから盛んで、中でも「木頭すぎ」は、建築用材として広く活用されています。

また、海部地区では、沿岸の常緑広葉樹を使った「樵木林業」が昔から行われ、非皆伐施業による持続可能な薪炭材生産が特徴となっています。

- ・ 水産業は、多種多様な漁業が営まれており、阿南市沿岸では、小型底びき網、船びき網、延縄、一本釣り、採貝、定置網などの漁船漁業に加え、ノリやワカメの藻類養殖が営まれるとともに、マダイやブリの魚類養殖が営まれています。
- ・ また、海部郡沿岸では、延縄、一本釣り、定置網、大敷網漁業、アワビを対象とした採貝、イセエビを対象とした刺網などが営まれています。

(課題)

- ・ 農林水産業は、TPP11や日EU・EPAの発効による「経済グローバル化」が進展するなか、就業者の減少や高齢化、生産コストの上昇、販売価格の低迷、さらにはウクライナ危機などの新たなリスク発生による「食料安全保障」上の懸念など、取り巻く環境は厳しい状況にあります。
- ・ 圏域の生活を支えてきた主要産業である農林水産業を守り、育てるためには、「産地を牽引する担い手の確保」と「もうかる農林水産業」へとつながる取組みが大切です。
- ・ そのためには、地域の核となる次世代を担う人材の育成や新規就業者の自立経営の促進とともに地域特性に応じた産地振興と販路拡大を通じた競争力の強化が不可欠となっています。
- ・ また、林業においては、伐採から再生林、保育までの「森林サイクル」の確立や県産材の供給体制の整備、木育活動の推進等による県産材の需要拡大・利用促進などの取組みが必要です。
- ・ 農林水産業は、自然の恩恵や食に関わる人々の活動への理解を深める重要な場であり、交流や学習の機会の提供といった取組みを進めることが必要です。

4 恵み豊かな自然環境の保全と継承

(現状)

- ・ 南部圏域は、紀伊水道と太平洋に面し、那賀川、日和佐川、海部川等が流れ、その上流には、山地が広がる豊かな自然環境を有しています。
- ・ 圏域内には、「室戸阿南海岸国定公園」や「剣山国定公園」に加え、「中部山溪県立自然公園」や「東山溪県立自然公園」が指定されています。また、「室戸阿南海岸国定公園」内に位置する「南阿波サンライン」周辺

は、多くの地域資源や住民主導の交流活動が評価され、国の「日本風景街道」にも登録されています。

- ・ こうした豊かな自然が育む多様な生態系の中で、大浜海岸をはじめ、県南部の砂浜に上陸、産卵するアカウミガメ、牟岐町の大島内湾にある推定年齢が千年を超える世界最大級のコブハマサンゴ、通称「千年サンゴ」が特に有名です。
- ・ これら美しい自然を守るための取組みに加え、恵まれた環境を活用したアウトドアスポーツをはじめ数多くのイベントが実施されています。
- ・ また、海・山・川が揃った環境は、小水力発電、木質バイオマスなどの「自然エネルギーの宝庫」ともいえます。
- ・ 農林水産業においては、環境保全型農業や、適正な森林整備など森林吸収源対策の推進、漁場環境保全活動を進めています。

(課題)

- ・ 自然環境の変化等により、アカウミガメの上陸数は減少傾向にあり、千年サンゴ周辺の海域ではオニヒトデやサンゴ食巻貝による食害被害が発生しているなど、生物多様性の保全が課題となっています。
- ・ また、ニホンジカやイノシシ、ニホンザル等による農林業や自然植生などへの食害も大きな問題となっています。
- ・ さらに、廃棄物の不法投棄等への対策・水環境の保全なども重要な課題となっています。
- ・ また、農林水産業の持続性の観点からは、環境負荷低減と収益性の維持・向上の両立が課題となっています。

5 人口減少への対応と「新しい人の流れ」の創出

(現状)

- ・ 本県は、急速な早さで人口減少と高齢化が進んでいます。中でも、南部圏域ではその傾向が顕著に見られ、県全体の人口減少率は2010年の約78万人から2020年の約72万人と約8.4%であったのに対し、南部圏域では2010年の人口約10万8千人から2020年の人口約9万5千人と同時期の減少率は約12%と高く、さらに老年人口の割合は県全体では2020年に約35%であったのに対し、南部圏域では約38.6%と、県内でも特に高齢化が進んでいる状況です。
- ・ 人口減少の要因として、地域を離れる転出者の超過が挙げられます。本県では2020年の県外からの転入者約9千人に対し、県外への転出者は約1万1千人と2千人の転出超過が生じており、南部圏域においても、全

ての市町で転出者が超過しています。

- ・ 一方、テレワークなど新しい働き方の急速な普及により、地方移住への関心は高まっており、近年、南部圏域を含め本県への移住者数は増加傾向にあります。

(課 題)

- ・ 人口減少や過疎高齢化の進行により、地域コミュニティの維持が危ぶまれているとともに、事業承継のための担い手や一次産業における就業者の確保が課題となっています。

また、地域コミュニティの衰退により、伝統文化、祭礼や行事の継承などが困難となりつつあります。

- ・ 安心して、仕事に就き、子育てができる、若い人たちに選ばれる地域づくりにより、「地方回帰」の流れを一過性とせず、地域の将来を担う若者の減少に歯止めをかけることが喫緊の課題となっています。
- ・ さらに、テレワークやワーケーションなど豊かな自然環境の中での新しい働き方やライフスタイルに対応し、圏域への新しい人の流れを生み出すことが必要です。

第3章 目指すべき将来像と課題解決のための理念

1 目指すべき将来像

徳島県では、全国に先駆け平成27年7月に「とくしま人口ビジョン」, 「vs 東京『とくしま回帰』総合戦略」を策定し, 「徳島ならではの」人口減少対策に取り組んできました。そして, この取り組みの検証を経て, 令和2年3月には, 「新たな人口ビジョン」と「第2期の総合戦略」を策定し, 持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めてきたところです。

新たな「とくしま人口ビジョン」では本県の将来像として, 県全体で「2060年に『55~60万人超』の人口水準の確保」を目指すとした目標を示したところであり, これを踏まえ, 南部圏域においては

『6万5千人~7万人超』の確保

を目指し, 持続可能な地域づくりに取り組みます。

こうした戦略を踏まえながら, 圏域を取り巻く社会・経済情勢, これに伴う住民ニーズの変化などに的確に対応し, 切迫する南海トラフ巨大地震や頻発・激甚化する風水害への対応, 基幹産業である一次産業の活性化, 観光産業の競争力強化などの課題解決を図り,

「安全で」「住みやすく」「あたたかい」 持続可能な地域づくり

を「目指すべき将来像」として, 南部圏域の振興に取り組みます。

2 課題解決のための理念

「目指すべき将来像」である「安全で」「住みやすく」「あたたかい」持続可能な地域づくりを進めていくためには、地域をつくる人、海・山・川が揃った豊かな自然とその恵み、伝統ある歴史・文化など、国内外に誇りうる「圏域の宝物」を最大限に活かすことが必要です。

そこで、NPOやボランティア、各種団体、企業など多様な主体が行政と協働し、役割分担しながら、連携・協力して計画を推進する「課題解決のための理念」として、

- つながり，支え合う（絆）
- まもり，伝える（継承）
- 育て，生み出す（創生）

を掲げ、「圏域の宝物」にさらに磨きをかけ、持続可能な地域づくりを進めます。

- 「**つながり，支え合う**」ことにより，
 - ・ 災害に備え，発災時には助け合う
 - ・ 生活のなかで，子どもや高齢者，障がい者，女性などを見守る
 絆で，「**安心**」して暮らすことのできる力強い「**安全**」な地域をつくり
ます。
 - ・ 世代や性別，障がいの有無などを超えて結びつく
 - ・ 移住者の暮らしと仕事をつなぐ
 絆で，**一人ひとりの笑顔が輝く「住みやすい」**地域をつくります。
 - ・ 人や地域の交流を生み出す
 - ・ 「お接待」の文化に根づいた
 絆で，**心豊かで，自然に優しい，魅力ある「あたたかい」**地域をつくり
ます。

- 「**まもり，伝える**」ことにより，
 - ・ 災害や暮らしで得た知識や知恵
 - ・ 地域のなかのあたたかく，強い人のつながり
 を継承し，「**安心**」して暮らすことのできる力強い「**安全**」な地域をつ
くります。
 - ・ 地域の基幹産業
 - ・ 自然とともに歩む暮らし
 を継承し，**一人ひとりの笑顔が輝く「住みやすい」**地域をつくります。
 - ・ 伝統ある歴史や文化
 - ・ 美しい自然と豊かな恵み
 を継承し，**心豊かで，自然に優しい，魅力ある「あたたかい」**地域をつ
くります。

- 「**育て，生み出す**」ことにより，
 - ・ 災害を迎え撃つ体制や施設
 - ・ 子どもや高齢者，障がい者，女性などを支えるシステム
 を創生し，「**安心**」して暮らすことのできる力強い「**安全**」な地域をつ
くります。
 - ・ 6次産業化やブランド化による地域産品の付加価値
 - ・ 空き家や遊休資産などの地域資源の活用
 を創生し，**一人ひとりの笑顔が輝く「住みやすい」**地域をつくります。
 - ・ 地域の環境を活かしたライフスタイル，ワークスタイル
 - ・ 美しく豊かな自然をはじめとした地域の魅力の「体感」
 を創生し，**心豊かで，自然に優しい，魅力ある「あたたかい」**地域をつ
くります。

第4章 課題解決のための基本戦略

「つながり，支え合う（絆）」、「まもり，伝える（継承）」、「育て，生み出す（創生）」を理念に掲げ，南部圏域の“未知なる未来への羅針盤”となる次の5つの基本戦略で「安全で」「住みやすく」「あたたかい」持続可能な地域づくりを実現します。

〈5つの基本戦略〉

- 安全・安心な暮らしを実現する地域づくり
- 国内外の観光客を惹き付ける観光地域づくり
- 農林水産業の発展による豊かな地域づくり
- 豊かな自然を保全・継承する持続可能な地域づくり
- 移住したい・住み続けたい魅力的な地域づくり

1 安全・安心な暮らしを実現する地域づくり

南海トラフ巨大地震をはじめとするあらゆる大規模自然災害に対し、「防災・減災対策の強化」と「速やかな復旧・復興に向けた取組み」の推進を図るとともに，誰もが生涯安心して暮らせる社会の実現を目指します。

(1)【プラン1】危機管理体制と防災啓発の充実・強化

【これまでの取組み】

- ・ 防災連絡体制の強化のため、「南部防災減災対策連絡会議」を開催
- ・ 四国の右下防災旬間をはじめとした防災啓発の推進
- ・ 農業版BCPの実践力UPのための講習会の実施
- ・ 避難所運営に携わる関係者等への普及啓発
- ・ 医療救護活動における連携体制の強化
- ・ 水位周知河川における洪水浸水想定区域図及び洪水タイムラインの策定

◆ 施策の方向性

防災人材の育成や応急体制の充実，デジタル社会をはじめ，新たな課題に対応した「深化する！防災減災県南プログラム」を着実に推進するほか，身のまわりにあるモノやサービスを日常時はもとより，非常時に

も役立てることができる「フェーズフリー」の考え方を浸透させるなど、南部圏域の防災・減災対策を進めます。

※ 今後、御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。

□ 今後の取組み<例示>

- ・ 地域防災を担う人材の育成
- ・ 関係機関との連携・協働による防災訓練等の実施
- ・ 南部圏域におけるフェーズフリー施策の推進
- ・ 災害時を見据えた健康な地域づくり
- ・ 災害時要配慮者対策の推進
- ・ 「医療救護活動」の連携体制の強化
- ・ 山地災害の危険性の高い地域の調査や点検の実施
- ・ 効果的な住民避難に繋げる「洪水浸水想定区域図」の策定
- ・ 流域治水プロジェクトの推進
- ・ ファミリータイムラインの作成
- ・ 災害に備えた食糧供給体制の整備推進
- ・ B C P（事業継続計画）の策定・実践力向上

(2)【プラン2】あらゆる自然災害を迎え撃つ県土強靱化

【これまでの取組み】

- ・ 那賀川加茂地区、和食土佐地区の堤防整備完成
- ・ 日和佐港海岸（大浜地区）の防潮堤補強完成
- ・ 長安口ダム本体改造完成
- ・ 阿南安芸自動車道（海部野根道路）のアクセス道路の整備

◆ 施策の方向性

切迫する大規模地震に対し、河川・海岸の地震・津波対策や緊急輸送道路などのインフラ整備、「命の道」となる阿南安芸自動車道の整備促進を図るなど、ハード面からの防災・減災対策を進めます。

※ 今後、御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。

□ 今後の取組み<例示>

- ・ 避難場所や避難路の整備
- ・ 緊急輸送道路等の整備・倒木対策

- ・ 河川・海岸堤防等の地震・津波対策
- ・ 河川における浸水対策の推進
- ・ 海部川モデルの推進
- ・ 長安口ダム of 長期的堆砂対策及び小見野々ダム再生事業の促進
- ・ 阿南安芸自動車道（海部野根道路）の整備に合わせた地域防災公園やアクセス道路の整備
- ・ インフラ分野におけるDXの推進
- ・ 流域治水プロジェクトの推進<再掲>

(3)【プラン3】生涯健康で安心して暮らせる社会の実現

【これまでの取組み】

- ・ 医療提供体制「海部・那賀モデル」の構築
- ・ 認知症サポーターの拡大推進
- ・ 生活習慣改善のための環境整備
- ・ 市町担当職員の児童虐待対応実務研修受入れ
- ・ DV等防止に係る講座やパネル展の実施

◆ 施策の方向性

医療・福祉・介護の連携・充実により、質の高い生活を確保するとともに、DV・性暴力・児童虐待の防止、食の安全・安心の確保などにより、誰もが生涯健康で安心して暮らせる地域づくりを進めます。

※ 今後、御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。

□ 今後の取組み<例示>

- ・ 医療提供体制の構築
- ・ 地域包括ケアシステムの深化・推進
- ・ 健康寿命延伸に向けた健康づくり
- ・ ワンストップでつなぐ住民福祉に関する相談支援体制の強化
- ・ 県民の食に対する安全安心の確保
- ・ 地域課題解決に向けた調査研究
- ・ 児童相談体制の充実・強化
- ・ DV・性暴力被害に対する支援の充実

2 国内外の観光客を惹き付ける観光地域づくり

世界初の本格営業運行を開始したDMVをはじめとする地域資源に磨きをかけ、価値を高めるとともに、観光客をスムーズに受け入れるための体制整備を進めます。さらに、旅行者の志向や行動パターンを把握し、ターゲットに応じた戦略的なプロモーション活動を展開します。

(1) 【プラン4】観光資源の磨き上げと受入体制の整備

- 【これまでの取組み】
- ・ 広域連携による旅行商品の造成
 - ・ 体験型プログラムの開発

◆ 施策の方向性

県南の強みである自然環境等を活用した観光資源の磨き上げや受入体制の整備など、人々でにぎわう地域づくりを目指した観光戦略を展開します。

※ 今後、御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。

□ 今後の取組み<例示>

- ・ 四国南東部広域観光連携協議会での広域観光づくりの実現
- ・ 「四国の右下」ならではのスポーツツーリズムの推進
- ・ 旅行者の受入体制の整備

(2) 【プラン5】DMVを活用した観光施策の展開

- 【これまでの取組み】
- ・ DMVの営業運行開始
 - ・ DMVを核とした観光コンテンツの開発

◆ 施策の方向性

DMVを核とした観光コンテンツの開発を更に進めるとともに、「四国の右下」の魅力を国内外に発信し、経済効果の波及による観光振興に取り組みます。

※ 今後、御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。

- 今後の取組み<例示>
 - ・ DMOとの連携によるDMVを核とした観光コンテンツの開発と魅力発信

(3)【プラン6】戦略的なプロモーション活動の展開

- 【これまでの取組み】
 - ・ YouTubeでの定期的な動画配信
 - ・ デジタルマーケティングによる広報戦略
 - ・ SNSでの情報発信
- ◆ 施策の方向性
 - 旅行者の志向や行動パターンを正確に把握し、ターゲットに応じた戦略的なアプローチを図るため、観光DXを活用した効果的な情報発信を行います。
 - ※ 今後、御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。
- 今後の取組み<例示>
 - ・ 観光DX等による情報発信の強化
 - ・ 「大阪・関西万博」を見据えた「四国の右下観光大使」等によるプロモーション

3 農林水産業の発展による豊かな地域づくり

「『いのち』と『暮らし』を支える農林水産業の次代への継承」と「『もうかる農林水産業』の実現」を目指すとともに、農林水産業の飛躍的な生産性向上につながるスマート技術の現場実装を推進します。

(1)【プラン7】担い手の育成と確保

- 【これまでの取組み】
 - ・ 地域が一体となった就農支援体制の構築
 - ・ 林業技術実習等の実施による林業人材の育成
 - ・ 地域漁業の未来を担う若手漁業者の育成・確保

◆ 施策の方向性

地域が一体となった就業支援体制の充実・強化や各アカデミーなど関係機関との連携により、次代の農林水産業を担う新規就業人材を育成・確保するとともに、多様な担い手が農林水産業を支える地域づくりを実現します。

※ 今後、御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。

□ 今後の取組み<例示>

- ・ 新規就農者の育成と自立支援
- ・ 林業従事者グループや「林業アカデミー」等と連携した担い手の育成
- ・ 「漁業アカデミー」等と連携した担い手の育成
- ・ 「きゅうりタウン構想」の推進
- ・ “若い力”を核とした「農の里」づくりの展開
- ・ 農業版マッチングアプリを活用した農業人材の確保
- ・ 多様な担い手の確保

(2)【プラン8】「もうかる農林水産業」の推進

【これまでの取組み】

- ・ 「きゅうりタウン構想」「農の里づくり」によるブランド産地の再生
- ・ 「木頭ゆず」のGI登録、輸出・6次産業化の促進によるブランド力の強化
- ・ 「林業プロジェクト」による県産材の生産拡大
- ・ かいふ水産ブランド「海部の魚」の認定・PR

◆ 施策の方向性

管内の基幹産業である「農林水産業の持続的な発展」と豊かなくらしを支える「農村の振興」を図りつつ、グローバル化・ボーダレス化の進展に対応し、市場ニーズや地域特性に応じた生産振興や需要拡大に向けた販売力の強化を進め、「もうかる農林水産業」の実現に取り組みます。

※ 今後、御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。

□ 今後の取組み<例示>

- ・ 農畜水産物のブランド化の推進と生産体制の再構築による供給力向上
- ・ 地域の特徴を活かしたブランド構築による「きゅうりタウン」の発信力の強化

- ・ 「木頭ゆず」・「阿波尾鶏」の輸出・6次産業化などによる販路拡大
- ・ 地域で受け継がれる「食」を活かした食育の推進
- ・ 6次産業化に取り組む女性ネットワーク等の活動支援
- ・ ケイトウなど那賀町特産花きの新たな需要拡大
- ・ 競争力・生産性の高い林業・木材産業の推進
- ・ 計画的な路網整備の推進
- ・ 伐採・再生林による循環型林業の促進
- ・ 「新たな森林管理システム」の運用支援
- ・ 森林環境譲与税を活用した林業の成長産業化の推進
- ・ 「海部の魚」のPR・販売促進
- ・ 大学等高等教育機関や企業と連携した新たな漁業の創出
- ・ 低利用・未利用素材などを用いた水産物の新商品の開発支援
- ・ 種苗放流や藻場造成など「資源管理型漁業」の推進

(3)【プラン9】「スマート農林水産業(DX)」の推進

【これまでの取組み】

- ・ 通信型複合環境制御技術の導入
- ・ 労働力確保のためのマッチングアプリの活用
- ・ GPS機能を搭載した水稲田植機の導入
- ・ ドローン等を活用したスマート林業の普及促進
- ・ 漁業における「リアルタイム水質情報配信システム」の整備

◆ 施策の方向性

I o T, A Iなどの革新技术を、栽培管理等で活用する「スマート農林水産業」を実装することで、生産性の向上や新たな付加価値の創出を図ります。

※ 今後、御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。

□ 今後の取組み<例示>

- ・ 次世代園芸技術の導入による生産性向上
- ・ DXによる熟練農家の「匠の技」の見える化
- ・ ドローンを活用した林地管理の効率化及び労働負荷の軽減
- ・ 漁業におけるリアルタイム水質情報配信システムの利用推進

4 豊かな自然を保全・継承する持続可能な地域づくり

圏域の宝物であり生活を支える、恵み豊かな自然環境の「保全」と「継承」の取組みを進めるとともに、自然資源等の利活用や環境と調和した持続性の高い農林水産業を実現することにより、環境・経済・社会の調和した地域づくりを推進します。

(1)【プラン10】次世代への自然環境の継承

【これまでの取組み】

- ・「みなみから届ける環づくり会議」による地域と協働した環境保全活動
- ・ビーチコーミング等を活用した海岸漂着物問題の啓発
- ・森林の公的管理や広葉樹林化の促進

◆ 施策の方向性

きれいな水環境の保全や健全な森林の育成、自然環境を未来へつなぐための人材育成などに取り組みます。

※ 今後、御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。

□ 今後の取組み<例示>

- ・ 貴重な自然資源の保護と次世代への継承
- ・ 森林の公有林化の推進
- ・ 生活排水対策の推進
- ・ 海洋漂着物や海洋プラスチックごみ問題の啓発
- ・ 高校生等のボランティア活動への参加促進
- ・ 河川を対象とした環境学習やフィールド講座の実施

(2)【プラン11】豊富な自然資源等の利活用

【これまでの取組み】

- ・ 捕獲鳥獣の地域資源としての活用
- ・ 県管理道路における道路照明灯のLED化

◆ 施策の方向性

捕獲鳥獣の新たな地域資源としての活用や木質バイオマスエネルギーの利用推進など、南部圏域の恵まれた自然資源等の利活用を推進します。

※ 今後、御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。

□ 今後の取組み<例示>

- ・ 集落ぐるみで取り組む総合的な鳥獣被害対策の推進
- ・ 「阿波地美栄」の供給体制の強化と消費拡大
- ・ 県管理道路における道路照明灯等のLED化の推進
- ・ 木質バイオマスエネルギーの利用推進

(3)【プラン12】持続可能な農林水産業の実現

【これまでの取組み】

- ・ 天敵昆虫や病害抵抗性品種を活用した総合的病害虫管理（IPM）による化学農薬の低減
- ・ 地域内たい肥（鶏糞）活用による化学肥料低減・地域循環型農業の推進
- ・ GAP推進による安全・安心農業の実現
- ・ 地球温暖化に対応する熱帯性果樹の栽培実証
- ・ 「伐って・使って・植えて・育てる」森林サイクルの促進
- ・ 製材端材等を活用したバイオマス発電の促進

◆ 施策の方向性

農林漁業に由来の環境への負荷低減を図ることで、環境と調和のとれたサステナブル（持続可能）な農林水産業の実現を目指します。

※ 今後、御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。

□ 今後の取組み<例示>

- ・ 地球温暖化対策（適応・緩和）の推進
- ・ GX・DXによる環境負荷低減技術の実装
- ・ 森林の公有林化の推進 <再掲>
- ・ フェーズフリーの視点を加えた持続可能な樵木林業の推進
- ・ 木質バイオマスエネルギーの利用推進<再掲>
- ・ 漁場環境保全の取組み支援

5 移住したい・住み続けたい魅力的な地域づくり

移住者の増加・定着化，サテライトオフィスの誘致・定着につなげるための施策を展開するとともに，地域に住む方がお互いに支え合うことができるまちづくりを推進します。さらに，地域の活性化を図るため，道路ネットワークの構築に取り組みます。

(1) 【プラン13】「ひと」と「しごと」の好循環によるまちづくり

【これまでの取組み】

- ・ 県内外の大学・高専生によるフィールドワークを通じた「四国の右下ファン」の創出
- ・ 移住フェアへの出展
- ・ サテライトオフィスマッチングイベントでのPR活動や圏域に進出した企業の活動等の情報発信
- ・ サテライトオフィス企業の進出・定着を総合的に支援する相談窓口（コンシェルジュ）の設置
- ・ コワーキングスペースを活用した地域交流会の開催
- ・ 徳島県こうのとり応援事業（医療保険が適用されない特定不妊治療の一部助成）
- ・ 女性健康支援センター（各保健所による相談窓口）
- ・ 小中高校生への健康教育（出前講座など）

◆ 施策の方向性

地域の特色を活かした移住・交流，サテライトオフィス誘致施策の展開や，結婚から妊娠，出産，子育てまでの切れ目のない支援などにより，魅力的な地域づくりを推進します。

※ 今後，御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。

□ 今後の取組み＜例示＞

- ・ 地域課題をテーマにしたフィールドワーク（高等教育機関との連携）
- ・ 地域の魅力発信による移住・定住の推進，地域ニーズとのマッチング
- ・ サテライトオフィス誘致と圏域への定着支援
- ・ 圏域内の公共交通維持

- ・ インフラ分野におけるDXの推進<再掲>
- ・ 南部圏域の魅力を体感できる講座の開催
- ・ プレコンセプションケアの推進及び不妊症・不育症に関する支援の充実
- ・ 補助事業による子育て世代への支援

(2)【プラン14】「地域の絆」によるまちづくりの推進

【これまでの取組み】

- ・ 県健康福祉祭南部サテライト大会の開催
- ・ 管内精神科医療機関へのピアサポーター派遣による出前講座
- ・ 生活困窮者の自立支援
- ・ NPO法人等の活動支援に関する相談対応や、申請書類等の作成支援

◆ 施策の方向性

「地域の絆」によるまちづくりを推進するため、住民団体や企業等との協働による取組みを進めます。

※ 今後、御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。

□ 今後の取組み<例示>

- ・ NPO法人等との協働・連携
- ・ 県健康福祉祭における南部サテライト大会の開催
- ・ 精神障がい者ピアサポーターの育成と活躍促進
- ・ 生活困窮者の自立支援
- ・ 地域の共同活動促進による農地や農業用水等の保全
- ・ 住民団体や企業等と連携した公共施設の新たな維持管理の推進

(3)【プラン15】道路ネットワークの整備推進

【これまでの取組み】

- ・ (一) 富岡港南島線の辰巳工区の完成・供用
- ・ (主) 阿南相生線の新野バイパスの完成・供用
- ・ 一般国道55号阿南道路的那賀川大橋周辺2.1kmの4車線化完成

◆ 施策の方向性

地域間交流の促進や防災力の強化，渋滞緩和等のため，地域住民に利便性の高い道づくりに取り組みます。

※ 今後，御意見をいただきながら肉付けをしてまいります。

□ 今後の取組み<例示>

- ・ 徳島南部自動車道，阿南安芸自動車道の整備促進
- ・ 一般国道，県道等の整備推進

